［課程－２］

審査の結果の要旨

氏名　　江本　駿

本研究は、周期性嘔吐症候群患者が感じる不安の内容・程度・時期による変遷を記述すること、児童期・思春期の周期性嘔吐症候群患者の健康関連 QOL の実態を明らかにすること、不安と健康関連 QOL に関連する要因を同定し、その要因の影響を明らかにすることを目的とし、患者・家族へのインタビュー調査および質問紙調査を実施した。

その結果、以下の結果を得ている。

1. 患者の不安は、発作自体の苦痛と発作による日常生活への影響から生じ、患者・家族は次の発作の予測枠組みを形成することでこの不安に対応していた。
2. 間欠期の中でも、次の発作が来る可能性があると患者が予想している「発作予想期」では、患者の不安は他の時期よりも高かった。
3. 患者の健康関連 QOL は一般集団よりも総じて低く、患者本人の評価では社会的 QOL 得点が最も高く評価された一方で、学校での QOL 得点が最も低く評価された。保護者は患者の健康関連 QOL 評価を本人よりも総じてやや低く評価した。
4. 発作予想期で、患者の不安が強いほど健康関連 QOL は有意に低下した。また、コーピング能力が高く、家族機能が良好であるほど HRQOL は有意に上昇した。
5. 患者本人の高いコーピング能力は不安の健康関連 QOL への影響を緩衝しなかった。一方で、良好な家族機能は不安の健康関連 QOL への影響を緩衝し、患者の神経症傾向は不安の健康関連 QOL への影響を増大させた。

以上、本論文では、患者・家族のエピソードの中でも不安が高まっている発作予想期に、家族機能および患者の神経症傾向に着目した支援を行うことで、患者の不安が健康関連 QOL に与える影響を抑えることができる可能性が示唆された。先行研究では医療者の視点から間欠期・発作期とのみ分けられていたエピソードに対して、未だ知見のなかった患者・家族の社会心理学的観点から、本疾患に特有の「発作予想期」という時期を導入した上で、この時期が他の時期よりも患者の不安が増悪することおよび不安の健康関連 QOL への影響と関連する要因を明らかにしたことは、本疾患に罹患している患者・家族への効果的な支援の内容とタイミングを検討する上で重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。